

アジアの持続的繁栄を確かにする金融セクター構築

第2回銀行監督・規制会議の開会講演

IMF 副専務理事
古澤満宏

皆様お早うございます。第2回銀行監督・規制会議にご出席いただき光栄に思います。この会議ではアジアにおける IMF の技術支援から得られた主な教訓を分かち合いたく思います。

今回の会議は重要なタイミングでの開催となりました。ご存知のように、ここ数週間アジア地域には世界の大きな関心が集まっています。アジアの経済見通しに対する市場の懸念が、不確実性を回避するために懸命に働くわれわれ公務員に対し新たな関心を向けています。金融セクターが当地域の偉大な経済的成功を支援し続けるのを確実にすることは、われわれの責務であります。そしてこの責務が本日われわれの考える課題をさらに重要なものにしていきます。

日本管理勘定 (JSA)

今会議が日本で開催されることは重要な事であります。なぜなら IMF の技術支援プログラムの多くが、日本の寛大な支援により可能となっているからです。実効性ある銀行監督による金融安定を促進する技術支援は、IMF の特定活動に係る日本管理勘定 (JSA) から資金供与を受けています。つい最近まで、私は日本の財務省の財務官としてこのプログラムの資金提供側におりました。そして現在はその資金を受ける側に回り、この資金をアジア太平洋地域、さらにはこの域外にまで有効利用できることをうれしく思っています。

この JSA 勘定を通じて、日本は IMF の世界で行う能力構築活動の最大の資金貢献国となっています。米ドルベースで見ますと、日本の資金はドナー提供の技術支援のほぼ 40% をまかっています。今この時点でも、JSA 勘定はアジア地域の 3 カ国で長期滞在アドバイザーの派遣を実施しています。ですからこの場を借りて日本の財務省に対してこの会議を含めて継続されている支援に IMF の深い感謝を表明させていただきたく思います。

この会議は、技術支援を受けた国の経験から学ぶために開催しましたが、一部の国は親切にもその経験を話すことを応諾して下さいました。また、日本の金融庁、韓国の金融委員会、インド準備銀行、中国銀行業監督管理委員会の方々も講演して下さいます。これらの方々からは、世界金融危機によって注目された銀行ガバナンスと監督、特に国境をまたいだグループ内の銀行の業務連関についてのカギとなる問題についての所見をいただけます。

アジア銀行セクター

ここで今日の議論の舞台設定をさせていただきたく思います。

過去 20 年間、アジアは世界で最も早い経済成長を達成し、この地域の GDP は今や世界全体の GDP の約 30% を占めています。この成長を反映し、アジアの銀行セクターはより大きく、より複雑に、そして相互連関が強まりました。アジア地域には先進国、国際金融センター、新興市場及び発展途上国が存在し、金融システム上重要な国際的金融機関の本社があります。

この環境下で、金融機関の業務が経済の安定と成長への脅威とならないことを確実にするために、銀行規制当局者の役割は重大です。世界金融危機以来、システミックリスクに対応するための重大な規制改革が実施されましたが、これらの改革は銀行の監督・規制当局者には課題を与えそうです。

企業ガバナンス

一つの重大な課題は企業ガバナンスです。大半の国では規制の枠組みが整備されていますが、多くの国でこの枠組みをサポートする監督慣行がありません。ですから JSA 勘定で資金供給される技術支援の主要目的は、しっかりした企業ガバナンスの確立を確かにするために、実効性ある銀行監督を構築することにより金融安定性を高めることです。

この支援を受けている国には、バングラデシュ、カンボジア、インド、インドネシア、ラオス、モルジブ、ミャンマー、ネパール、フィリピンが含まれています。これらの支援は複数年にわたるプロジェクトで、金融安定性を高めるために、制度的な機能と規制を拡充するこ

とに焦点を当てています。そして、これらの試みは国際的な最良慣行を各国の個別事情に合わせて調整されています。

商業銀行での強化された企業ガバナンスはこれらの監督基準の重要な一部であることは確かです。IMFの銀行危機での経験では、貧弱なガバナンスがきわめてネガティブな結果になったことを浮き彫りにしています。

銀行の企業ガバナンスの中核はリスク管理です。それは銀行自体にも、また、金融セクター全体にとっても重要です。この文脈の中で、バーゼル委員会は企業ガバナンスの指針を更新しました。リスクテークの意欲、銀行のリスク状況に整合するリスク管理枠組みの履行、そして長期目標に見合った報酬についての銀行経営陣の責任を詳らかにした原則を作り上げました。また、改定された指針は規制当局者が銀行の企業ガバナンスを評価することも義務付けました。アジアの銀行業務の文脈の中でガバナンスとその適用が議論されることを望みます。

連結監督

二つ目の課題は、各国で協調した監督の実効性ある枠組みを作ることです。われわれの金融システムの分析は、部門間や国境をまたいで広がる金融機関やその活動によってもたらされるリスクの特定と対応について大半の国が問題を抱えていることを示唆しています。IMFの2015年春の国際金融安定性報告書はアジアの銀行の地理的資産配分を分析しています。2008年以後、この地域の資産のシェアは全体の約10%から20%近くへと増えました。これは一つには中国の銀行の国際化を反映したものです。日本とオーストラリアを除いたアジア経済での国境を越えた銀行の資金フローは2007年と2015年の第1四半期の間に約80%増加しました。

国境をまたいだ銀行業務は、多角化やリスク分担、投資の恩恵を自国やその系列会社が設置される国にもたらしますが、地域連関の強まりは国境をまたいだショックに対するより大きな脆弱性も潜在化させます。複数の系列会社が異なる行政圏に存在すればリスクの伝播が広がるため、これは特に重要な問題です。グループ全体、あるいは系列会社の破たんは、複数の行政圏（つまり国）での金融安定性を脅かす可能性があります。われわれは世界金融危機の際、ショックが米国住宅市場から世界の市場へ迅速に伝播していった際にこの現象を経験しています。

これは銀行監督と規制、そして危機解決に関連する課題を生んでいます。グループの親銀行の健全性を強化する金融改革は、海外の系列会社によるネガティブなショックの伝播を限定的にすることを助け得ます。現実的なアプローチは、規制基準の一貫性ある履行と国境をまたいだ解決のための関係国が受け入れられる調整を確実にするために、情報の共有と統一された制度上及び規制上の枠組みが必要です。これらの共有された目標は規制・監督当局間のより緊密な協調と調整と相まって、金融安定性に対するリスクを抑えながら、グローバルバンキングの恩恵を確実にします。

将来の課題

今後を展望しますと、アジアの金融システムがさらに大規模化、かつ複雑化することは明らかです。そして創意工夫、統合性、包摂性を増していく潜在力を備えています。より相互連関性の深い金融システムは家計や年金基金がとりわけ資産投資の多様化を可能にしますが、これは理想的にはリスクを軽減させます。また、アジアの素晴らしい成長の次の段階をけん引する企業ファイナンスの新たな資金源と成り得ます。

しかし金融統合が進むにつれ、規制当局と当局間の協調の役割がかつてなく重要となります。これが一国の問題がシステム全体の問題に発展することを防ぐ方策です。IMFはこの統合プロセスの安全性確保の一助として、アジア地域の規制・監督担当者の方と協力することができます。この会議は、この協調作業を充実させるための小さな一歩です。

このスピーチを終えるにあたり、今日ここに出席し、重要な議論に建設的な貢献をしてくださる皆様に感謝したいと思います。私の生まれたこの国で皆様がとても心地よい時を過ごされ、大変建設的な議論が交わされることを切望いたします。

ご静聴ありがとうございました。